

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の所蔵資料から

永原陽子

特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所は、アジア・アフリカの言語と文化を総合的に研究する全国共同利用の研究所として、一九六四年の創設以来、広汎な資料を収集し、国内外の研究者の利用に付してきた。資料は、文献資料のみならず、地図・図版・絵画・音声・動画等、多岐にわたっており、収集の対象とする地域も狭義の「アジア・アフリカ」とどまらない。

ここでは、本研究所のアジア関係所蔵資料の中から、近年、整備・公開された資料群を含む台湾関係資料と、オリジナリティに富んだ中東関係コレクションに焦点を絞って紹介する。今回紹介するもののほかにも、アジア諸地域にかんする充実したコレクションを持つが、紙幅の関係で割愛せざるを得ない。本研究所所蔵資料のほとんどは、東京外国語大学図書館OPACから検索することが可能 (<http://www.lib.tufs.ac.jp/opac/index.html>)。

また本研究所所蔵資料の利用に関する案内としては、<http://www.tufs.ac.jp/common/library/etc/Asiayoshiutsu.htm#hassu>を参照してほしい。

●台湾関係

・小川尚義・浅井恵倫台湾資料

日本統治下の台湾で原住民言語の研究に携わった言語学者の所蔵資料・調査記録のコレクション。コレクションに名を冠する二人は、一九二〇年代から三〇年代を中心に、台湾で広汎なフィールドワークを行い、

原住民の言語と文化を記録した言語学者である。二人の研究の成果は同時代に一部刊行されていたが、本研究所では、浅井の死後に寄贈された未公開資料を整理し、データベース化して近年公開した。写真・動画・音声記録等もデジタル化されて新たな生命を吹き込まれ、両氏の台湾原住民研究の全貌が明らかになった。コレクションは、和洋書約八七〇冊のほか、フィールドノート等の文書類約四〇〇点、民族写真約二万二〇〇枚、記録フィルム約四〇巻、音声レコード約四〇枚などを含み、質・量ともに優れ、当時の台湾原住民社会を知る手がかりとして稀有の記録であり、言語学のみならず、人類学、歴史学等さまざまな分野の研究に活用し得る。この資料公開は台湾

においても大きな注目を集めており、台湾原住民の権利回復運動にも歓迎されている。本コレクションの全容については、<http://oa.ripi.asav>を参照されたい。また、本研究所で開催した同資料展覧会のウェブ・サイト <http://www.gicaz.jp/aiwan/>が有益な案内となる。

・王文庫

台湾語研究者王育徳博士の、明治から昭和六〇年代までに台湾・中国・日本・欧米等で刊行された、台湾の政治・外交・歴史・民族・民俗・言語・文学・産業等にかんする図書・雑誌等一一三四冊のコレクション。特に日本統治時代にかかわる台湾の政治事情、台湾総督府・台湾官公庁関係資料、学術機関誌、写真帳、台湾語の辞典・研究叢等は貴重。日本で台湾独立運動を行っていた王氏の主筆していた雑誌『台湾青年』全巻や、台湾で発禁であった雑誌類も含む。

●中東関係

・アメリカ海外伝道印会年次報告記録
Papers of American Board of Commissioners for Foreign Missions: 1817-1919 (マイクロ



特集／アジア地域関連コレクション—わが国主要図書館の所蔵資料から

フィルム二一九リール)

アメリカン・ボードは一八一〇年に設立されたプロテスタント伝道団。本資料はオスマン帝国領内のキリスト教徒(東方教会およびカトリック)・ユダヤ教徒のプロテスタント化運動に関する同組織の現地報告書で、当時の宗教・社会・政治状況を知ろうと貴重な記録である。

・米国立文書館、米国務省中東関係文書 Collection of Official Records of the U.S. Department of State relating to the Middle East, 1796-1949 (マイクロフィルム七二七リール)

国務省内部や領事・公使報告書を中心に、オスマン帝国、トルコ、アラブ諸地域とイランの情勢や、これら諸地域と米国をめぐり国際関係に関する重要な情報を含む資料。一九世紀後半以降が主体。パレスティナ関係の記録も多く、機密文書も含まれている。

・ミンガナ・コレクション (二八九六点
マイクロフィッシュ九五九六シート)

ミンガナ・コレクションとは、Dr. Alphonse Mingana (一八八一年、イラク生まれ) により収集されたオリエント写本のコレクションであり、現在イギリスの Selby Oak Colleges Library に保管されている。ミンガナは、カルデア教会のキリスト教徒で、モースルで教師となり、その後、英国へ渡った。その間、レバノン、シリア、イラク、シナイ半島、上エジプトを旅行し、アラビア語・シリア語写本を収集した。

・トルコ共和国官報 Türkiye Cumhuriyeti Resmî Gazete

「トルコ革命」途上の一九二〇年から一九二九年にいたる同共和国の官報セット。わが国に唯一所蔵されるコレクションである。「トルコ革命」史、その後の共和国建設の過程を研究するための基本的な資料。

・トルコ大国民議会議事録 Türkiye Büyük Millet Meclisi Tutanak Dergisi

一九二〇年に発足したトルコ議会の、一九二九年にいたるまでの公式議事録であり、前項と同様、トルコ現代史研究の基本資料である。

・ロンドン大学東洋アフリカ研究所所蔵 東地中海・オスマン帝国関係図書 The Ottoman Empire and the Mediterranean in the 16th Century (マイクロフィッシュ)

一六世紀にイタリア語・ラテン語で書かれたオスマン帝国および東地中海諸国に関する書物二五〇冊余のマイクロフィッシュ。一六世紀の地中海地域研究の基本文献として貴重なもの。

・オスマン帝国官報 Takvimi-Yekavy

一八三一年から一九二二年にいたる同国の歴史のみならず、同時期における中東の歴史研究の基本的資料。ごくわずかな欠落(六号分)があるが、現在、世界でもこれだけ欠落の少ないコレクションは存在しない貴重なものである。

・オスロン語劇場ポスター Osmanlıca Tئاتر Afisleri (一九八枚)

一九世紀末から二〇世紀初頭にかけてイスタンブルで上演された演劇のポスターおよびパンフレットのコレクション。イスラーム社会における西欧文化受容を演劇の側面において理解する好資料。世界でも稀なコレクション。

・エジプト誌 Description de l'Égypte 第二版一八二〇—一八三〇年(テキスト二六冊及び図版一一部)

ナポレオン・ボナパルトは、一七九八年エジプトに遠征した。そのとき、約一八〇名の学術調査団を随行し、エジプトの総合的な調査を行った。その内容は、考古・民族・自然・地理・産業等、多岐にわたる。本資料は、その学術調査の詳細な記録(報告書)である。一八〇四年版が初版であり、その後、一八二〇年から一八三〇年にルイ一八世の勅命により再版されたのがこの「第二版」で、以後刊行されていない。

・カイロ絵画集 Illustrations of Cairo 一八四〇年、英国(石版画)

一八二四年から一八三八年にかけてエジプトを数回訪れた英国人 Robert Hay およびその他の三人が活写したカイロ市街の風景画集。計二九枚に三〇の絵画がある、高い美術的価値に加えて、写真技術がない時代の貴重な歴史的情報を豊かに含む画像資料でもある。有名な英国人オリエンタリスト E. Lane への献辞もある。

(ながはら ようこ)／東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授